

北海道中学校体育連盟 令和2年（2020年）版 体操競技男子2部規則

北海道中学校体育連盟体操競技・新体操専門委員会

北海道体操連盟体操競技男子審判委員会

第1章 演技の採点

第1条 原則

- 次に示すもの以外は、（公財）日本体操協会制定2017年版体操競技男子採点規則を適用とする。

第2条 決定点

1. 決定点の構成

- 決定点は、次のような配点により構成される。

演技構成	(Dスコア：5技 + 終末技 + 技のグループ)
+ 実施	(Eスコア：10.00 - 減点) + 加点 (最大0.50)
- ND	(ニュートラル・ディダクション：ライン減点、タイム減点、技数不足等)
<hr/>	
決定点	

2. 演技構成、および技のグループと特別要求（種目特有の要求）

- ゆか、鉄棒の演技は次の技数を要求する。

- 技数 6技（5技+終末技）

- 技は難度により、次の得点（難度点）が与えられる。

A：0.20 B：0.40 C以上：0.60

（a：0.10）

- 技のグループ、および特別要求（種目特有の要求）

- ゆか、鉄棒において次のグループを要求する。

- 終末技を除き3つの技のグループの内、2つを要求する。

（1グループにつき0.50。0.50×2グループ=1.00）

※3つの技のグループを実施しても1.00となる。

- 終末技の技のグループ（A難度以上0.50）

- 技のグループは次の通りとする。

ゆか)

- 跳躍技以外の技
- 前方系の跳躍技
- 後方系の跳躍技
- 終末技

鉄棒)

- 懸垂振動技
- 手放し技

III バーに近い・アドラー系の技

IV 終末技

c) 特別要求（種目特有の要求）

ゆか、において次の技を特別要求（種目特有の要求）として演技構成に入れること。要求を満たさない場合は各々0.30のNDとする。なお、6技に入れる必要はない。

- ①ゆか ・倒立経過の技 ※1
・前後または左右開脚座
・片足バランス技

※1 前方倒立回転、後方倒立回転、ロンダート、側方倒立回転、倒立前転、後転倒立 など
倒立静止に関する減点は行わない。

(3) 難度認定の特例

a) a難度（スモール・エー）

i) 体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から次の技を「a難度」とし0.10の難度点を与える。ただし、技のグループは満たせない。主なa難度は第5条2の通り。

b) a難度を除き、難度表に掲載されていない次の技を特例として難度を認定する。

（技のグループと技数を満たす）

鉄棒	III	・足裏支持回転倒立	: A難度
		・け上がり支持	: A難度
	IV	・振り上げ支持ひねり下り	: A難度
		・後方足裏支持回転振り出し下り	: A難度
		・前方かかえ込み宙返り下り	: A難度
		・後方かかえ込み宙返り下り	: A難度

(4) 跳馬の価値点（Dスコア）

a) 跳馬の価値点（Dスコア）は、原則として、下記に定める価値点とする。

- ・開脚跳び（1. 0）
- ・閉脚跳び（1. 0）
- ・台上前転（2. 0）
- ・前方転回跳び（4. 0）

b) 上記表に示されていない技を実施した場合には、 難度点（Dスコア）は0点とする。

第3条 実施

1. 実施

(1) 実施は10.00から実施減点を差し引いた得点をEスコアとする。

2. 実施減点

(1) 正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点であり、審判員によって相応の減点がなされる。

小、中、大欠点の大きさは、正しい実施からの逸脱の程度により判定される。小、中、大欠点等の減点はFIGルールでの減点に準ずる。ただし落下のみ0.50とする。

3. 減点に関する特例

(1) 鉄棒において、正しい実施のもとに意図して実施された振れ戻りは減点の対象としない。

- 例) 後ろ振り上がりや逆手から順手への両手持ち換え
- (2) 飛距離、高さ等に対する減点は体格などを考慮し選手が不利にならないように採点する。また、競技会のレベルも考慮し審判員が判断する。

4. 加点

- (1) 加点は、E審判が採点後のEスコアに得点（該当する加点）を加算する。
- (2) 着地を止めた場合は安定した着地に対して、0.10の加点をする。(a難度を除く)
- (3) 美しさ、雄大さなどに最大0.40の加点を与えることができる。なお、この加点は必ずしも技に対して与えるものではない。ゆかで直立した時の姿勢や意識されたつま先など、競技会の主旨、レベル等を考慮し審判員が各自で判断する。ただし、Eスコアに加点を与えて10点を超えることはできない。
- (4) 組み合わせによる加点は与えない。

第4条 ND

1. ニュートラル・ディダクション

- (1) ゆかにおいて、2回宙返りを実施しなくてもNDの対象にはならない。
- (2) ゆかにおいて、4つのコーナーに達しなくとも2つの対角線上（2ライン）での実施が認められればNDの対象にはならない。2ラインの使用がなければ減点対象とする。
- (3) 短い演技（技数不足）に対するNDは、体操競技の普及、および教育的配慮の観点から次の通りとする。

6～5技	0.00
4～1技	3.00

第5条 その他

1. 事故防止と選手の精神的援助のため鉄棒において2名までの補助者が立つことが許される。
2. 主なa難度を以下に示す。示された技以外は競技会の主旨、レベル等を考慮して審判員が各自で判断する。

ゆか)

- ・前転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転）1技まで
- ・後転技群（後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立）1技まで
- ・側方倒立回転
- ・ロンダート など

鉄棒)

- ・懸垂前振りひねり
- ・懸垂前振り逆上がり
- ・後ろ振り上がり支持
- ・両手を同時に持ち換える技
- ・前方支持回転、後方支持回転 など